

タイ - 日本学生科学交流会議と基礎工の国際的人材育成プログラム - 国際学生ネットワークの構築による環太平洋学生科学交流会議の開催 -



海外交流

久保井亮一*

Thai - Japanese Students' Academic Exchange Meeting(TJSE) and Creation of
Asia - Pacific Young Leaders' Alliances, Collaboration, and Networking based on Sigma - MRL
Key Words : VJSE, TJSE, Sigma - MRL

「国際貢献を通じた人材育成と学生間人材ネットワークの創成」(略称:国際学生ネットワーク活動)は、基礎工未来研究ラボ活動(MRL)の一環として、平成14年秋より実施されてきた、研究科横断型の「国際的に通用する人材」育成支援プログラムである(その制度や概要については、既に報告があるのでここでは割愛する)。ここでは、これを利用することによって、学生たちが主体的に、また基礎工工学部の留学生相談室や国際交流委員会とも連携して、積み重ねてきた活動実績の一端と、基礎工の国際的人材育成戦略の一部である、国際学生ネットワークの構築と環太平洋学生科学交流会議の開催企画を紹介する。

これまで、学問的・文化的背景の異なる学生たちが主体となって、チームを構築し、或いは協力して課題を設定し、海外遠征や海外・国内他大学からの招聘も含めて企画・実施する中で、幾つかのユニークな国際交流プログラムが生まれてきた。いずれも、「地域に生き世界に伸びる」阪大らしい、また異文化の融合によって新しい文化を創造するという基礎工らしい、プログラムと言えるが、これらの内(1)学生による課題設定と学生チーム海外派遣型企画、および(2)ベトナム-日本、タイ-日本学生科学交流会議(VJSE, TJSE)を例にとって、阪大発・基

礎工発の国際交流/国際的人材育成プログラムとして紹介し、参考に供したい。

(1) 学生による課題設定と 学生チーム海外派遣型企画:

これは、以前に大阪大学創立70周年記念事業の一環として、基礎工工学部より提案して採択された学生主体の国際交流プログラム「阪大学生代表団の海外派遣」事業と、一部コンセプトを共有している。即ち、留学生も含めて異なる学問的・文化的背景を持つ数名の学生たちがチームを構成し、阪大発のユニークな国際交流テーマを企画立案し、阪大生自身の行動を通して世界に情報を発信するということは基本的に同じである。しかし、阪大全体としての事業としては、2チーム(各チーム最大100万円)という制約があるため、提案企画の中で選抜・採択はされないが、基礎工独自のコンセプトから審査した場合、学生の企画としてはユニークであり基礎工らしさを評価できるものや、さらには基礎工の人材育成計画や国際戦略とも合致する企画も多い。そこで、このような学生チーム活動をMRLとして支援し、さらにケースによっては教員チームや基礎工国際交流委員会派遣教員とも柔軟に協力体制を組んで企画を実施するというものである。例えば、基礎工の英語特別コースの開発や国際的人材育成に関する課題設定として、スイス・チューリッヒへの派遣チーム(テーマ:英語での授業を最大限活用しよう)、ベトナム・タイへの派遣チーム(ベトナムと日本に学生交流の橋をかけよう:ベトナム・タイにおける情報・バイオ工学に関する学生交流セミナー:発展下にあるタイに学ぶ学力問題の実態と解決の糸口)、米国への派遣チーム(日米大学院生における就職の価値観の違いについて:環境の意識調査)などがあ



*Ryoichi KUBOI

1946年6月生
大阪大学大学院,基礎工学研究科,博士
後期課程,化学系専攻修了工学博士
(1974年)
現在,大阪大学基礎工学研究科教授,留
学生センター教授併任,基礎工国際交流
委員長,留学生相談室長
TEL:06-6850-6285
FAX:06-6850-6286
E-mail:kuboi@cheng.es.osaka-u.ac.jp

る。昨年場合には、大阪大学タイ・バンコクセンター開所式・記念式典・国際シンポジウムでは、阪大側の発表者の一員として、学生チーム代表2名(タイ留学生、日本人学生)が、それぞれタイにおける教育調査活動成果報告、および(2)に述べる第1回タイ-日本学生科学交流会議の趣旨説明と参加の呼びかけを行っている。また彼らは、基礎工国際交流委員会ミッションの一部も担い、ベトナム・タイにおける交流協定締結校を訪問して、基礎工情報・パイオ先端研究紹介と留学勧誘に関する学生交流セミナーなどを行っている。

(2) インドネシア-日本、ベトナム-日本、 タイ-日本学生科学交流会議の企画：

学生主催による第1回タイ-日本学生科学交流会議(The 1st TJSE)を例として説明する。本会議は、昨年11月2-3日に、基礎工学部・シグマホールで行われ、120人を越える多数の参加者を迎えて盛大に開催された。本会議は、大阪大学や地域の各支援団体の協力のもと、基礎工学部未来研究ラボの活動の一環として行われ、大阪大学のタイ留学生・基礎工学部(シグマ)留学生会を中心に、大阪大学の教職員、関連支援団体の招待客、日本各地のタイ留学生(関東からの約30名の他広島・京都・神戸など)、日本人学生、他の国の留学生、若い研究者らが交流する試みである。

午前の開会式では主催学生代表Pakati P Aksharanandanaさん(基礎工・物質創成専攻・博士後期3年)の開会の辞・趣旨説明に続いて、宮原秀夫総長始め、タイ大阪総領事Supote Isarankurana Ayudhaya氏の祝辞があり、また西田基礎工学研究科長から“タイ・日本等の学生・研究者の領域を超えたネットワーク構築を”との歓迎の挨拶があった。

伊藤 正 基礎工学研究科教授からは、未来研究ラボ「国際学生ネットワーク」支援により開催されてきた、これまでのインドネシア、ベトナム-日本などの学生科学交流会議の歴史が紹介された。さらに、小谷理学研究科長、高田歯学研究科長、タイ(チュラロンコン大学、カセサート大学、タマサート大学、SIIT、NSTDAなど)からの来賓や、東大など国内他大学招待講演者らの紹介があった。引き続き、橋

本日出男 理事・国際交流委員長から、非常に意義深い日本/大阪大学とタイとの教育・人材交流の歴史と展望について、基調講演があり、ビデオプレゼンテーションや、シグマ留学生会代表の学生による講演があった。

開会式の後、待兼山会館にて行われた交流パーティーでは、会議参加者の交流が賑やかに行われた。その後、基礎工学研究科にて、三つのセッションに分かれて、参加者の研究発表があった。翌日は、タイ文化祭が賑やかに開催され、日本各地のタイ留学生の科学交流、学生活動紹介の後、適塾等の見学ツアーも行われて、二日にわたる会議を成功裡に終了している。この成果に基づき、第2回タイ-日本学生科学交流会議も、GLOCOLやJICAの協力も得て、同様に大阪大学いちょう会館で行われる予定であり、現在日タイ修好120周年と人間と科学技術のサステイナビリティをテーマに、既にその準備が始まっている。また、第3回については、大阪大学バンコクセンターの協力も得て、タイでの開催も含めて検討中である。

TJSEの成果は、2002年以来実施してきた、インドネシア-日本学生科学交流会議、第1回-第3回まで大阪大学(2回)・神戸大学で開催され、現在第4回が東京大学で開催を計画中のベトナム-日本学生科学交流会議(VJSE)の実績に基づいており、またこれらいずれの会議も、毎回100名~250名の参加を得てさらに発展しつつある。

以上(2)の各国-日本学生科学交流会議は、大阪大学・基礎工学部を中心とする海外留学生と日本人学生リーダーの協力の成果であり、同時に環太平洋リーダーネットワークの形成と、将来的にはこれらリーダーネットワークに基づく環太平洋学生科学交流会議の開催を視野に入れている。

毎年の大阪大学いちょう祭では、以上(1)(2)の活動成果報告も含め、基礎工未来研究ラボと基礎工留学生相談室・国際交流委員会の共催により、学生たち主導で、活動成果発表会を実施しているが、これは同時に新入生歓迎や、他の学生たちへの啓発を兼ねている。これらの報告の一部は、毎年発行される「基礎工留学生相談室だより」にも掲載されているので参照されたい。